

2025～26年度

入学/通学のためのニューヨーク州の予防接種要件¹

注：
ニューヨーク州で学校に通うには、年齢に応じた予防接種を受けている必要があります。予防接種の回数は、米国の「予防接種の実施に関する諮問委員会」（Advisory Committee on Immunization Practices、ACIP）が推奨するスケジュールに従うものとします。ワクチン接種の間隔は、[「ACIPが推奨する小児および青少年の予防接種スケジュール」](#)（[ACIP-Recommended Child and Adolescent Immunization Schedule](#)）に従うものでなければなりません。最低年齢に達する前またはスケジュールに記載の間隔より前に受けた接種は無効となり、下の表に記載されている接種回数には数えられません。各ワクチンに関する具体的な情報については、脚注をご覧ください。学年が指定されていない授業に出席する生徒は、年齢に相当する学年向けの予防接種要件を満たさなければなりません。

必ず、接種回数の要件と本スケジュールの脚注の両方を読んでください

ワクチンの種類	幼稚園入学前 （デイケア、 Head Start、保育園、 またはプレK）	幼稚園児、および1、2、3、4、5年生	6、7、8、9、10、 11年生	12年生
ジフテリア・破傷風トキソイド含有ワクチンおよび百日咳ワクチン（DTaP/DTP/Tdap/Td） ²	4回	5回または4回 4回目の接種を4歳以上で受けたか、接種のシリーズが1歳未満で開始された場合 3回 7歳以上であるか、接種のシリーズが1歳以降に開始された場合	3回	
ジフテリア・破傷風トキソイド含有ワクチンおよび百日咳ワクチンの青少年向けブースター（Tdap） ³	非該当			1回 10歳以降に接種
ポリオワクチン（IPV/OPV） ⁴	3回	4回または3回 3回目の接種を4歳以上で受けた場合		
麻疹、おたふくかぜ、風疹ワクチン（MMR） ⁵	1回	2回		
B型肝炎ワクチン ⁶	3回	3回または、成人用B型肝炎ワクチン（Recombivax）を11歳～15歳の間に4か月以上間隔をあけて受けた小児に2回		
水痘（水ぼうそう）ワクチン ⁷	1回	2回		
髄膜炎菌結合型ワクチン（MenACWY） ⁸	非該当			7、8、9、10、 11年生：1回 12年生： 2回、または16歳以降に受けた場合は1回
インフルエンザ菌b型結合型ワクチン（Hib） ⁹	1～4回	非該当		
肺炎球菌結合型ワクチン（PCV） ¹⁰	1～4回	非該当		

1. 麻疹、おたふくかぜ、風疹の抗体の血清学的証拠、またはこれらの疾患の臨床検査による確認は、これらの疾患に対する免疫の証明として認められます。ポリオの血清学的検査は、検査が2019年9月1日までに実施されており、3つの血清型がすべて要請であった場合にのみ、免疫の証明として認められます。血液検査でB型肝炎の表面抗体が陽性である場合、B型肝炎に対する免疫の証明として認められます。水痘抗体の血清学的証拠、水痘を患ったことの臨床検査による確認、または医師、医師助手、もしくはナースプラクティショナーによるその子どもが水痘に罹患したという診断は、水痘に対する免疫の証明として認められます。

* 破傷風、ジフテリア、百日咳、髄膜炎、インフルエンザb型、および肺炎球菌感染症に対しては、血清学的力価は認められません。

2. ジフテリア・破傷風トキソイドおよび無細胞百日咳（DTaP）のワクチン。（最低年齢：生後6週間）

a. 予定どおりに接種のシリーズを開始する子どもは、生後2か月、4か月、6か月、15か月～18か月、および4歳以上において、DTaPワクチンの接種を5回受ける必要があります。4回目の接種は、最も早い場合、生後12か月で受けることができますが、3回目の接種から6か月経過していることを条件とします。ただし、DTaPの4回目の接種がDTaPの3回目の接種から少なくとも4か月後に実施されている場合、これを繰り返す必要はありません。このシリーズの最後の接種は、4歳の誕生日以降かつ前回の接種から6か月以上経過している時点で受ける必要があります。

b. DTaPの4回目の接種が4歳以上、かつDTaPの3回目の接種から少なくとも6か月後に実施されている場合、DTaPの5回目（ブースター）の接種を受ける必要はありません。

c. 小児期用DTaPワクチンのシリーズで完全に免疫を獲得していない7歳以上の子どもは、キャッチアップ接種シリーズでの1回目の接種として、Tdapのワクチン接種を受ける必要があります。追加の接種が必要な場合は、TdまたはTdapのワクチンを使用します。1回目の接種を1歳の誕生日前に受けた場合は、必要な接種回数は4回ですが、最後の接種を4歳以降に受けたことを条件とします。1回目の接種を1歳の誕生日以降に受けた場合は、必要な接種回数は3回ですが、最後の接種を4歳以降に受けたことを条件とします。

d. [詳細については、生後4か月から6歳の小児向けの「疾病対策予防センターのキャッチアップ・ガイドンス」\(CDC Catch-Up Guidance\)を参照してください。](#)

e. [詳細については、7歳から9歳の小児向けの「疾病対策予防センターのキャッチアップ・ガイドンス」を参照してください。](#)

3. 破傷風・ジフテリアトキソイドおよび無細胞百日咳（Tdap）の青少年向けブースターワクチン。（6年生～11年生での最低年齢：10歳、12年生での最低年齢：7歳）

a. 6年生から12年生に入学・進級する11歳以上の生徒は、Tdapワクチンを1回接種していなければなりません。

b. 6年生から12年生までの要件に加え、前述のように、Tdapは小児期のDTaPシリーズで完全に免疫を獲得していない7歳以上の生徒に対するキャッチアップ・シリーズの一部として接種されることもできます。2025～26年度においては、6年生から11年生の生徒に対するTdapの要件は10歳以上で受けたTdapの接種のみで満たされますが、12年生の生徒に対する要件は7歳以上で受けたTdapの接種で満たされます。

c. 6年生で10歳であり、Tdapワクチンを未接種の生徒は、11歳になるまでは接種要件を満たします。

d. [詳細については、10歳から18歳の子どもの向けの「疾病対策予防センターのキャッチアップ・ガイドンス」を参照してください。](#)

4. 不活化ポリオワクチン（IPV）または経口ポリオワクチン（OPV）。（最低年齢：生後6週間）

a. 予定どおりに接種のシリーズを開始する子どもは、生後2か月、4か月、6か月から18か月、および4歳以上で、シリーズのIPVの接種を受ける必要があります。このシリーズの最後の接種は、4歳の誕生日以降かつ前回の接種から6か月以上経過している時点で受ける必要があります。

b. 4歳になる前かつ2010年8月7日より前に4回目の接種を受けた生徒については、それぞれ少なくとも4週間の間隔をあげた4回の接種で要件が満たされます。

c. ポリオワクチンの3回目の接種を4歳以上で、かつ前回の接種から少なくとも6か月後に受けている場合、ポリオの4回目の接種を受ける必要はありません。

d. OPVの接種歴のある子どもの場合、ニューヨーク州の学校のポリオワクチン要件を満たすとして回数に含まれるのは三価経口OPV（tOPV）のみです。2016年4月1日より前に接種されたOPVの接種は、一価、二価、またはポリオウイルス予防接種キャンペーン中の接種と特に記載されていない限り、要件を満たす回数に含まれます。2016年4月1日以降に受けたOPVの接種は、要件を満たす回数には含まれません。

e. [詳細については、生後4か月から17歳の子どもの向けの「疾病対策予防センターのキャッチアップ・ガイドンス」を参照してください。](#)

5. 麻疹、おたふくかぜ、風疹ワクチン（MMR）。（最低年齢：生後12か月）

a. MMRワクチンの1回目の接種は、1歳の誕生日以降に受けていなければいけません。2回目の接種が有効とみなされるためには、1回目の接種から少なくとも28日（4週間）以上経っている必要があります。

b. 麻疹：幼稚園入学前に接種を1回受ける必要があります。幼稚園から12年生の間に接種を2回受ける必要があります。

c. おたふくかぜ：幼稚園入学前に接種を1回受ける必要があります。幼稚園から12年生の間に接種を2回受ける必要があります。

d. 風疹：全学年（幼稚園入学前から12年生）について、接種を1回以上受けている必要があります。

6. B型肝炎ワクチン

a. 1回目は出生時またはその後いつでも接種することができます。2回目の接種は、1回目から4週間（28日）以上経ってから接種する必要があります。3回目の接種は、2回目の接種から少なくとも8週間後であり、かつ1回目の接種から少なくとも16週間後であり、かつ生後24週より前に受けていないことが必要です（4回接種する場合は、この計算で「3回目の接種」を「4回目の接種」に置き換えます）。

b. 11歳～15歳の間に、4か月以上間隔をあけて受けた成人用B型肝炎ワクチン（Recombivax）の2回の接種は要件を満たします。

7. 水痘（水ぼうそう）ワクチン。（最低年齢：生後12か月）

a. 水痘ワクチンの最初の接種は、1歳の誕生日以降に受けていなければいけません。2回目の接種が有効とみなされるためには、1回目の接種から少なくとも28日（4週間）以上経っている必要があります。

b. 13歳未満の小児の場合、接種の間隔として推奨される期間は3か月です（2回目の接種が1回目接種から少なくとも4週間経過している場合は有効とされます）。13歳以上の場合は、接種の最低間隔は4週間です。

8. 髄膜炎菌結合型ACWYワクチン（MenACWY）。（7年生～12年生の最低年齢：10歳）

a. 7、8、9、10、および11年生に入学・進級する生徒については、髄膜炎菌結合型ワクチンの1回の接種が求められます。

b. 12年生の生徒については、髄膜炎菌結合型ワクチンの1回目の接種を16歳以上で受けている場合、2回目（ブースター）の接種は必要ありません。

c. 2回目の接種は16歳以上で受ける必要があります。接種間最低間隔は8週間です。

9. インフルエンザ菌b型（Hib）ワクチン。（最低年齢：生後6週間）

a. 予定どおりに接種のシリーズを開始する子どもは、生後2か月、4か月、6か月、および12か月～15か月で、Hibワクチンの接種を受ける必要があります。生後15か月以上の子どもは、ACIPキャッチアップ・スケジュールに従って接種回数を満たす必要があります。最後の接種は生後12か月以降に受ける必要があります。

b. 生後12か月までに2回のワクチン接種を受けている場合は、12か月～15か月で2回目の接種から少なくとも8週間後に3回目の接種を受けることにより、必要なのは3回の接種のみとなります。

c. 生後12か月から14か月の間に1回目のワクチン接種を受けている場合は、初回の接種から少なくとも8週間後に2回目の接種を受けることにより、必要なのは2回の接種のみとなります。

d. 初回の接種を生後15か月以降に受けている場合は、必要なのは1回の接種のみとなります。

e. Hibワクチンは5歳以上の子どもには必要とされません。

f. [詳細については、健常な生後4か月から4歳の小児向けの「疾病対策予防センターのキャッチアップ・ガイドンス」を参照してください。](#)

10. 肺炎球菌結合型ワクチン（PCV）。（最低年齢：生後6週間）

a. 予定どおりに接種のシリーズを開始する子どもは、生後2か月、4か月、6か月、および12か月～15か月で、PCVワクチンの接種を受ける必要があります*。生後15か月以上の子どもは、ACIPキャッチアップ・スケジュールに従って接種回数を満たす必要があります。最後の接種は生後12か月以降に受ける必要があります。

b. 生後7～11か月のワクチン未接種の小児は、少なくとも4週間の間隔をあけて接種を2回受け、生後12か月～15か月で3回目の接種を受ける必要があります。

c. 生後12～23か月のワクチン未接種の小児は、少なくとも8週間の間隔をあけて接種を2回受け必要があります。

d. 生後24か月以降に1回の接種を受けている場合、それ以上のワクチン接種は必要がありません。

e. PCVは5歳以上の子どもには必要とされません。

f. [詳細については、健常な生後4か月から4歳の小児向けの「疾病対策予防センターのキャッチアップ・ガイドンス」を参照してください。](#)

* ワクチンのブランドにより、スケジュールが異なる場合があります。
- 詳細は、以下までお問い合わせください。
- New York State Department of Health**
Division of Vaccine Excellence
Room 649, Corning Tower ESP
Albany, NY 12237
(518) 473-4437
- New York City Department of Health and Mental Hygiene**
School Compliance Unit, Bureau of Immunization
42-09 28th Street, 5th floor
Long Island City, NY 11101
(347) 396-2433
- ニューヨーク州保健局（New York State Department of Health） /
ワクチンエクセレンス課（Division of Vaccine Excellence）
- health.ny.gov/immunization
- 17389 (Japanese)
- 05/25